第１回 淡路水資源戦略委員会

第１部　淡路広域水道企業団
水道事業の概要

1　総　論

状　況	概　要
① 地理等 （地形・気候）	・地形は南高北低の構造で南部の諭鶴羽山地，中部の津名丘陵，北部の北淡山地と三原低地 と洲本低地に区分される ・瀬戸内気候区に属し、年間を通じて温暖・多照少雨
② 水事情	・自己水源（ダム水、河川水、井戸水）や本土導水など水源系統が多岐にわたる ・市域の特性により組み合わせが異なる
③ 企業団の状況	・島内水道事業の統合や地理的制約からの水道資産が膨大 ・施設数や管路延長に見合う職員数が不足
④ 近況	・島外資本による観光関連産業への進出などにより交流人口が拡大 ・観光開発等で水需要が急増し、供給不足に直面
⑤ 需要の二極化 （人口減少 × 観光産業増）	・人口は減少傾向 ・観光需要などは増加傾向 ・水需要構造に変化が出ている

2①.地理等（地形・気候）

＜地形・気候＞

➤淡路島は南北約53km、北東から南西に細長く伸びる瀬戸内海最大の島で、北部は山がちで細長く、南部に行くにつれて東西に広がる「ひょうたん型」の地形をしており、急峻な山地と、中央部に広がる平野や丘陵が特徴。

➤気候は瀬戸内海式気候で、年間を通して温暖で雨が少ない。

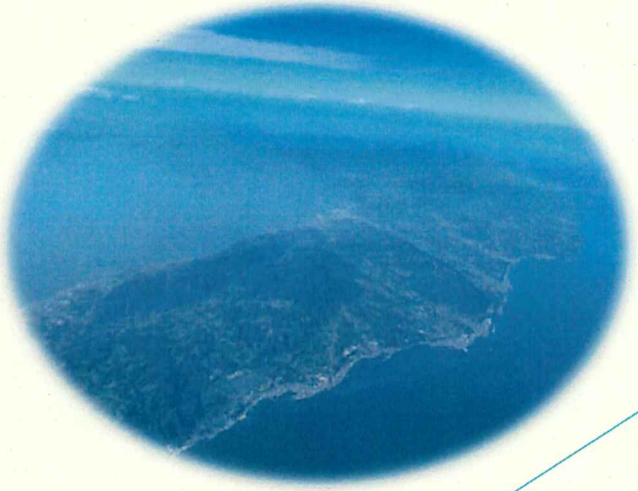
・年間降水量全国平均 1,703mm※国土交通省HPより

洲本市 1,151mm

南あわじ市(南淡) 1,012mm

淡路市(郡家) 873mm

※気象庁HP（R7）より



3②.水事情

➤大きな河川がなく、水源をため池や深井戸などに依存。

兵庫県内の主な河川	法定河川延長	流域面積
加古川	96km	1,730㎢
揖保川	70km	810㎢
円山川	68km	1,300㎢

淡路島の主な河川	法定河川延長	流域面積
三原川	15km	124㎢
郡家川	11km	26㎢
洲本川	11km	87㎢

※河川整備基本方針(兵庫県)、河川維持管理計画(国交省近畿地方整備局)より

→ **井戸や表流水では水源水量が不足することから、新たな水源としてダム開発や本土導水により確保**

3②.水事情

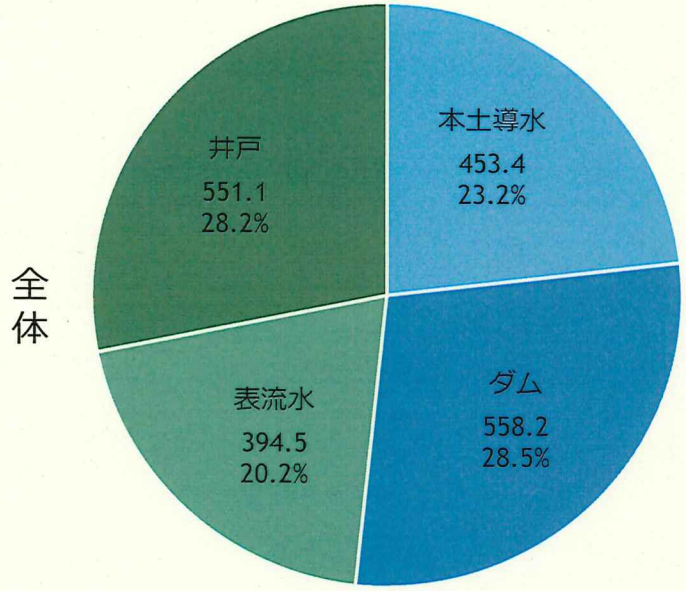
＜水　源＞

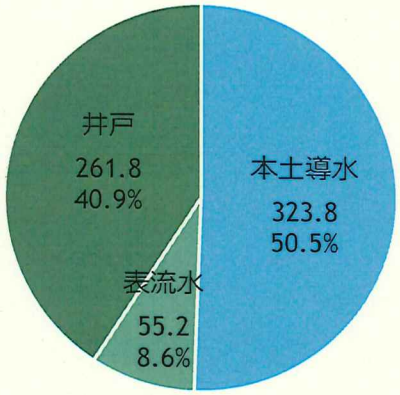
➤淡路市地域　　：主に本土導水、井戸

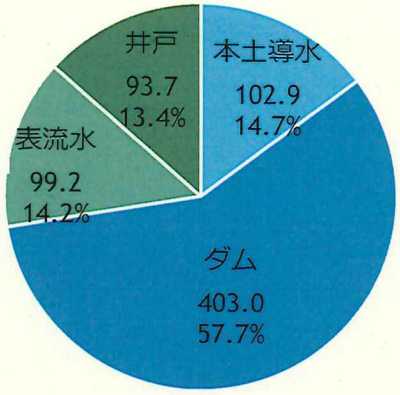
➤洲本市地域　　：主にダム水源

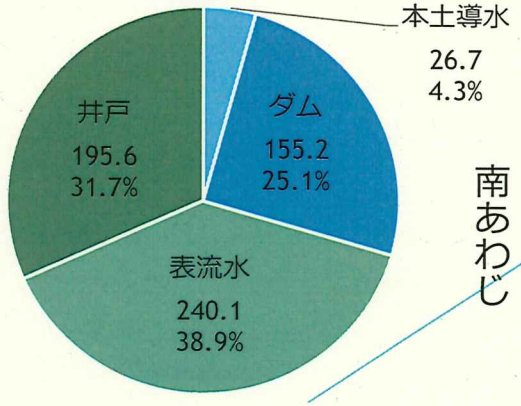
➤南あわじ市地域：表流水、井戸、ダム水源

→市域の特性によって、
様々な水源対策を講じている。









4③.企業団の状況

＜概　要＞

項　　目	内 容
設　　立	平成22年（島内水道事業の統合）
給水人口	約12.6万人
職 員 数	58人（3市派遣含む）うち派遣職員：30人
管路延長	約2,100km

【給水人口規模別】水道事業担当職員数

10万人以上20万人未満	36.2人
20万人以上30万人未満	71.7人
30万人以上40万人未満	92.0人
40万人以上50万人未満	102.4人
50万人以上100万人未満	156.6人
100万人以上	378.9人

※　水道事業の現状等（最新追加資料）　令和７年７月　総務省自治財政局公営企業経営室

4 ③.企業団の状況

＜施設・管路＞

➤施設数が355箇所と兵庫県内の同規模事業体（給水人口10～15万人）の10倍、神戸市　（149万人）と同程度

➤管路は同規模事業体の3倍

	本企業団 約12万人	三田市 約11万人	川西市 約15万人	神戸市 約149万人
水　源	77	4	6	3
浄水場	38	3	1	4
配水池	126	21	20	260
加圧所	114	9	3	51
上記計	355	37	30	318



5④.近況

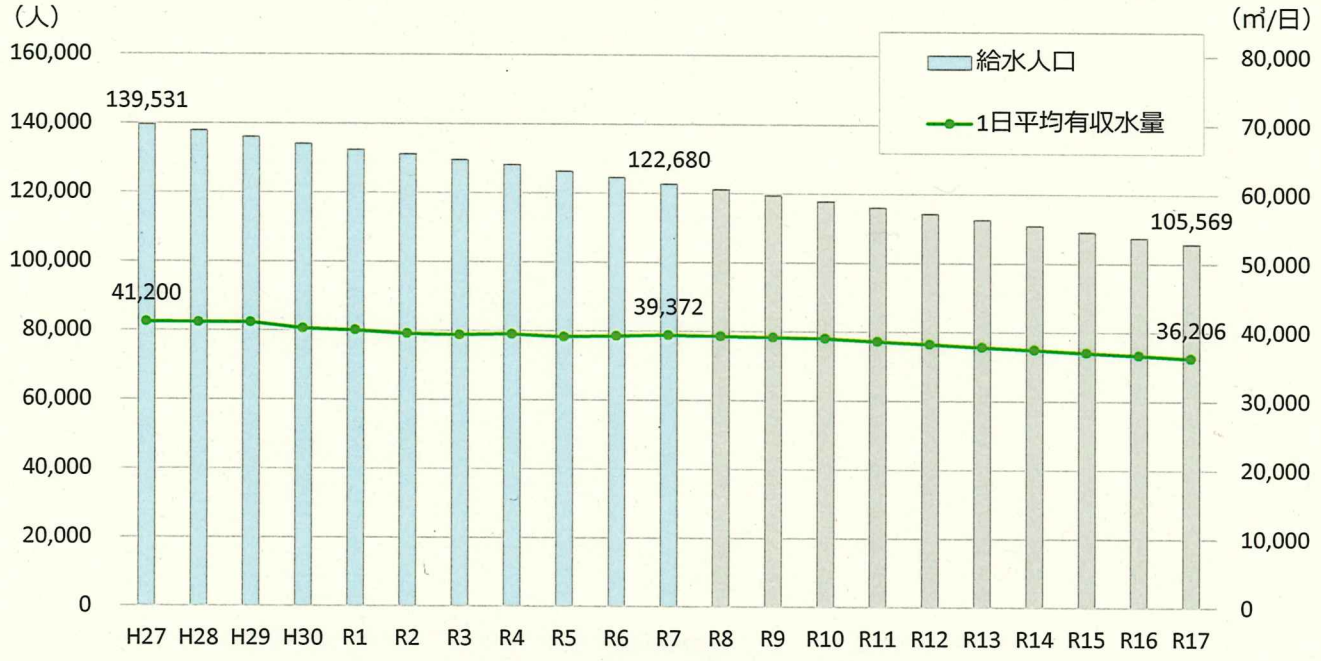
＜観光開発の進展と水需要の増加＞

- 島内各地で宿泊施設や商業施設などの開発が進展
- 観光客や交流人口の増加などにより、水需要が増加
- 人口減少を前提としていた水需要構造に変化が生じている

5④.近況

＜人口減少と水需要の変化＞

➤ 給水人口の減少に比べ、有収水量の減少幅は小さい見込み。



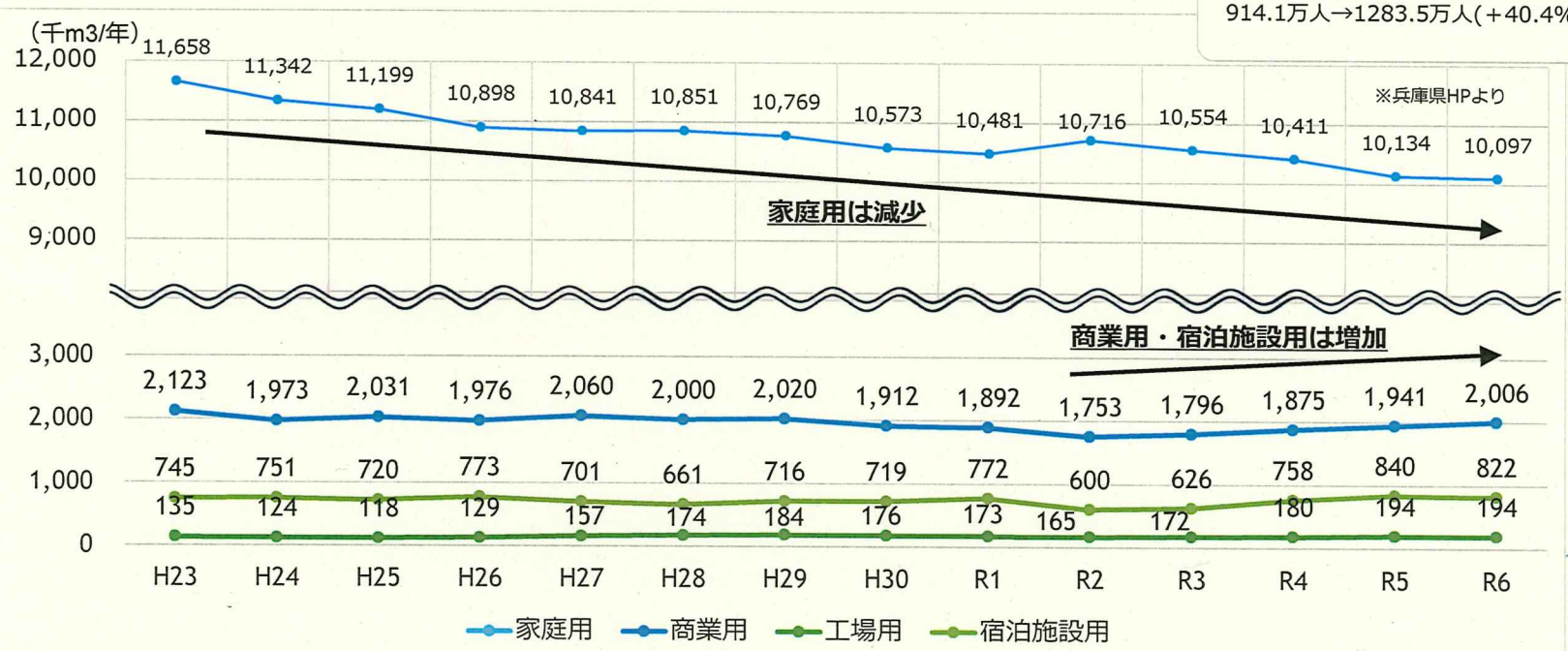
6⑤.需要の二極化（人口減少×観光産業増）

＜水需要の内訳＞

➤人口減少に伴い、家庭用水量は減少傾向

➤ 一方、観光需要等の増加により、商業用・宿泊施設用は増加傾向

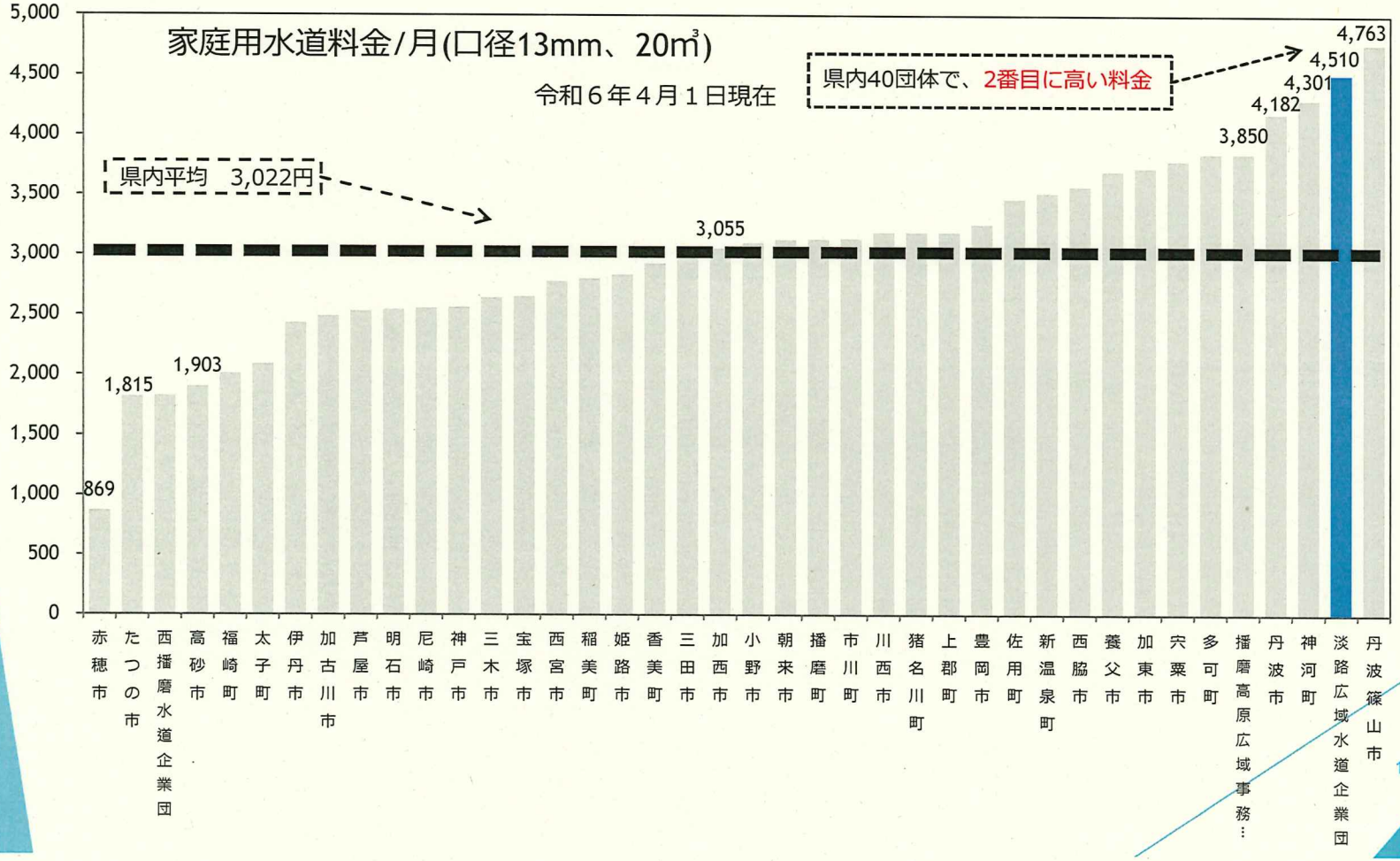
観光客の増減（H23→R6）
914.1万人→1283.5万人(＋40.4%)



7 まとめ（構造的にコストが高い水道事業）

➤多数の施設・長大な管路を保有
➤人口減少でも、施設や管路の維持管理・更新費は減らない

→ 構造的にコストが高い水道事業



7 まとめ（持続可能な水道事業に向けて）

